

# 民話 おらほの言葉で

## 県内ゆかり7団体が公演

【北上】第2回いわて民話まつりin北上(実行委主催)は24日、北上市立花のみちのく民俗村で開かれた。県内ゆかりの7団体が方言を交えて地元や岩手、東北地方に伝わる昔話を語り、来場者に民話の魅力を伝えた。

### 胆江・北上・花巻地方

◆地域の情報や話題をお寄せください

水沢支社 0197(23)2111  
北上支社 0197(65)3447  
花巻支社 0198(24)9055

各地域の言葉で語り継がれてきた昔話を末永く伝承しようと、在京北上出身者らによる「ふるさと北上民話研究会」13人を中心に行行委員会を組織。県内ゆかりの7団体36人が出演した。

同研究会は、岩手山と早池峰山が姫神山をめぐる男のバトルを繰り広げる「姫神山」、湯田の若い男が笛吹き修行のため京へ出向き、発表会で笛の音が一番と評価された

「笛吹三郎」などを上演。「岩手山と早池峰山は今も仲が悪く、どちらかが天気が良ければどちらかが悪い」「奉公先の3人娘で三郎の取り合いになり、三郎は未婚を連れて湯田に戻った」とそれぞれ物語を締めくくり、「どんとほれ」で結んだ。

金ヶ崎ろばたの会は、「大工と鬼六」で川に丈夫な橋を架ける代わりに目玉を要求する鬼と大工のやりとりを軽妙な語り

口で披露。くすまきかだる会、雫石・語りの会、会、滝沢・昔語りの会、昔話を語り伝える水沢「プレアデス」の会、読み聞かせグループやまびこ(九戸村)の各団体も、独自の語り口で来場者の興味を引いていた。

同研究会は首都圏のイベントにも出演しており、今回、その縁で駆け付けた神奈川県川崎市の佐藤澄子さん(66)は「民話を伝えるのは大事で、今勉強している。特におじいちゃんの話は一つ一つの言葉に重みがあり感動した。かやぶき屋根のいい雰囲気でも民話を聞くことができて良かった」と満足した様子だった。



いわて民話まつりin北上。土地の言葉を交え昔語りをする出演者

蘭牧枝実行委員長は「県内でも少しずつ違う昔話や方言を楽しんでもらえたのでは。昔語りに」と成果を語った。